

第8章 学術情報と情報公開・広報活動

8.1 情報インフラストラクチャ整備と利用状況

システム情報科学府・研究院は、「情報」に関する教育研究を遂行する組織であることから、九州大学情報統括本部が全学共通に整備し提供している情報インフラストラクチャに加えて、独自のインフラストラクチャを整備し、活用している。また、学府・研究院の情報通信全般の企画と運営を担当するシステム情報科学府・研究院情報通信委員会と、その下部組織としてのLAN管理ワーキンググループを組織し、情報インフラストラクチャの円滑な運用を行っている。

伊都キャンパス・ウエスト2号館では、情報統括本部が全学で整備している九州大学総合情報伝達システム（KITE）が提供するキャンパスネットワークサービスならびに九州大学無線LANアクセスサービス（kitenet）に加えて、システム情報科学府・研究院独自のネットワークインフラストラクチャであるローカルエリア・ネットワーク（LAN）網が整備されている。このLAN網では、複数台のギガビットネットワークスイッチ（日立製作所製GS3000, GS4000）を用いて、講座や研究室単位の仮想的なLAN構成が実現されている。さらにシステム情報科学府・研究院および工学部電気情報工学科における教育研究のための計算機資源として、全学向けサービスとして情報統括本部において導入が進められているキャンパスクラウドに加えて、学府・研究院独自の高度情報教育を推進する仮想デスクトップ型教育用クラウドシステム（VCL:Virtual Computing Lab.）の整備が進められている。また電気情報工学科の演習、実験で用いる学部教育用コンピュータも整備され、電気情報工学に関する高度な教育が推進されている。加えて、研究院長室、共用会議室では、テレビ会議システムが、講義室では遠隔講義システムが整備されている。

上述のハードウェア面での整備に加え、学府・研究院での教育研究活動で利用されるソフトウェアとして、専攻単位のライセンスに基づくソフトウェア開発環境整備、Mathematica, Matlabなどの汎用アプリケーションの共有化やネットワークライセンスの共同購入が実現されている。学府における電子メールサービスやドメインネームシステム（DNS）サービスの一部は、情報統括本部のホスティングサービスを利用し、運用の省力化と高信頼化を進めている。

上述の情報インフラストラクチャの概要を表8-1-1にまとめる。

上記のインフラストラクチャの運用において、利用者の利便性向上と同時にセキュリティの確保と不正使用の防止が重要である。システム情報科学府・研究院では、九州大学情報統括本部が実施しているセキュリティ確保・不正使用防止の方策に加えて、学府・研究院の情報インフラストラクチャを利用する教職員・学生全員に対し、セキュリティ確保と不正使用防止に必要な注意点や禁止事項を徹底するため、これらを記載した文書を配布し、その内容を十分に理解した上でインフラストラクチャを使用することを確認する文書の提出を求めている。

8.2 組織内情報共有・対外情報公開のためのシステム

システム情報科学府・研究院では、学術情報の公開ならびに組織内での効率的で利用しやすい情報共有手段として、以下の3種類のシステムを構築し、運用している。

(1) 総合 WEB システム

学府・研究院内の情報サービスの一元的な提供を目的に、システム情報科学研究院・総合 WEB システムが整備され、本システム上で各種通知のための掲示板や研究院内のメーリングリスト、学生の学習活動を記録するポートフォリオなどが運用されている。

(2) ポータルシステム

学府・研究院の対外発信力強化を目的に、学科・学府・研究院のポータルシステムが新たに開発され、魅力的で目的の情報が容易に得られるホームページが提供されている。またポータルシステム上では、全学認証システム SSO-KID を用いた個人認証機能に基づく情報提供システムも同時に実現されている。

(3) Magnet システム

総合 WEB システムに代わる新たな情報提供システムとして、ウェブブラウザを用いて利用できるソーシャル・ネットワーク・サービス (SNS) 機能を電子メールシステムと統合した情報共有機構を有する Magnet システムの開発と活用が進められている。

表 8-1-1 システム情報科学府・研究院で整備している情報インフラストラクチャ

システム名称	主要部分型式	数 量
ギガビットネットワークスイッチ	GS4000-80E	1
	GS4000-160E	3
	GS3000-40E	2
	GS3000-20E	1
仮想デスクトップ型教育用クラウドシステム	ブレードサーバ BS320 (408 コア)	1
	ファイルサーバ用 PC HA8000 (2 コア)	3
	VPN 装置 ASA5520	1
	ハイパーバイザ VMware vSphere4	1
学部教育用コンピュータ	仮想マシン管理ソフトウェア VCL	1
	デスクトップ PC Dell Optiplex 760	134
	ノート PC Dell Latitude E5500	70
	モノクロネットワークプリンタ	7
	カラーネットワークプリンタ	2
	サーバ HP ProLiant DL320 G6	6
	瞬快 基本システム	2
	瞬快 追加ライセンス	132
テレビ会議システム	Microsoft VisualStudio 2008	134
	Sony PCS-XG55	2
遠隔講義システム	Sony PCS-XL55	1
	Polycom HDX7000	7
共通ソフトウェア	Microsoft Academic Alliance	3
	Mathematica ver.8	65
	Matlab Classroom Perpetual Concurrent	70
	Matlab Academic Perpetual Concurrent	10

8. 3 広報活動全般

学府・研究院の広報活動の企画と実施を行うために、システム情報科学研究院広報委員会(委員長: 広報担当副研究院長)を設置している。情報公開に関しては、全学の情報公開・個人情報保護委員会規程に基づき、平成 21 年度より部局委員会を設置し、法人文書の開示請求の対応などを審議している。法人文書の開示請求があった場合は、部局委員会で審議後、全学の委員会で審議し、開示決定を行っている。

学府・研究院の一般的な情報公開のため、8. 2 節に記したポータルシステム上に、システム情報科学府・研究院のホームページを開設している。ホームページで公開している情報は多岐にわたるためここでは詳述しないが、図 8-3-1 に示すように、情報を、受験生、学生家族、企業・一般、在学生、教職員などの対象別の分類、専攻毎の組織別の分類など、複数の切り口で整理して、情報の発見が容易になるようにしている。

学府・研究院を紹介する紙媒体のパンフレットを作成し配布している。和文版は毎年内容を更新して発行し、英文版は隔年で更新を行っている。これらは詳細な情報を記しており、学府・研究院の状況を詳しく伝えるには良い媒体であるが、より気軽に知ってもらうために、日英版の簡易パンフレットも作成している(図 8-3-2 参照)。パンフレットの内容はホームページ上でも公開している。



図 8-3-1 システム情報科学府・研究院ホームページ



図8-3-2 英語版システム情報科学府・研究院簡易版パンフレット表紙

8. 4 教育に関する広報活動

8. 4. 1 冊子・ホームページ

システム情報科学府に関する教育活動についての情報は、以下の冊子または方法によって公開している。

(1) システム情報科学府案内パンフレット

システム情報科学府の目指す方向、特色、構成する専攻・大講座とその内容のキーワード・教員名、授業科目、入学案内が記載されたパンフレットを毎年制作している。電子化されたものがオンラインで参照できる (<http://portal.isee.kyushu-u.ac.jp/overview/dl.html>)。また冊子は専攻事務室で入手できる。

(2) 募集要項

修士課程（8月試験の正規入学，3月試験の飛び級入学，2月試験の外国人特別入学，6月試験の特別入学），博士後期課程（2月試験の正規入学），及び，博士後期課程社会人特別選抜

(2月, 8月試験)の募集要項があり, 教務課教務係・学生支援係で入手できる。

(3) シラバス (授業計画)

シラバスは電子化されておりオンラインで参照できる (<http://portal.isee.kyushu-u.ac.jp/campuslife/school/syllabus.html>)。また, これらに関連した資料として, 学府履修の手引き (授業要目, 学府規則, 九州大学学位規則の記載もある) が教務課教務係に置かれている。

(4) ホームページ

九州大学のホームページ (<http://www.kyushu-u.ac.jp>), システム情報科学研究院のホームページ (<http://portal.isee.kyushu-u.ac.jp>) が設けられている。

8. 4. 2 オープンキャンパス

毎年8月にオープンキャンパスを実施している。これは, 高校生を対象とし, 学部・学科選定の参考にってもらうことを目的とした活動であり, システム情報科学府・研究院の研究室で行われている研究内容の紹介を行っている。表8-4-1に来場者数を示す。

表8-4-1 オープンキャンパス来場者数

平成21年度	平成22年度	平成23年度
555名 (2,950名)	540名以上 (3,010名)	790名以上 (3,450名)

(括弧内は工学部全体の実績)

8. 4. 3 高等専門学校への説明

毎年, 教員を高等専門学校に派遣し, 高専教員と専攻科在学生を対象として, システム情報科学府の説明会を実施している。表8-4-2に実績 (派遣教員総数, および訪問先) を示す。

表8-4-2 高等専門学校訪問実績

平成21年度	平成22年度	平成23年度
派遣教員総数: 17名	派遣教員総数: 7名	派遣教員総数: 12名
訪問先: 大分高専, 沖縄高専, 佐世保高専, 都城高専, 熊本電波高専, 徳山高専, 八代高専, 高松高専, 有明高専	訪問先: 佐世保高専, 有明高専, 北九州高専, 沖縄高専, 大分高専, 徳山高専, 宇部高専	訪問先: 都城高専, 宇部高専, 佐世保高専, 鹿児島高専, 有明高専, 熊本高専, 久留米高専, 宇部高専, 沖縄高専, 北九州高専

情報学専攻と電気電子工学専攻では平成21年度から毎年6月に書類選考と口述試験のみによる特別入試が実施されている。これは, 主に高等専門学校専攻科の修了者を対象としており, 高等専門学校への説明会はこの特別入試に関して受験者への周知を図ることが目的の一つとなっている。表8-4-3に特別入試の実績を示す。

表8-4-3 特別入試実績

専攻	平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	志願者	口述試験 対象者	合格者	志願者	口述試験 対象者	合格者	志願者	口述試験 対象者	合格者
情報学				4	4	4	5	5	5
電気電子工学	11	8	5	10	9	5	8	6	2
計	11	8	5	14	13	9	13	11	7

8.5 研究に関する広報活動

8.5.1 WEBを通じた研究広報活動

現在、九州大学では全教員の研究教育活動等報告書データベースを構築して教育・研究活動、社会連携等に関するデータを学内外に公開している。

このホームページ URL は

<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/index.html>

である。本研究院の教員について、教育・研究の内容、学外各種委員会への参加・社会貢献の状況、共同研究、受託研究などに関する概要的な情報はこのデータベースにアクセスすることによって、学内外を問わず誰でも知ることができる。また、教員個人もしくは研究室のホームページも開設しており、研究紹介や研究成果の広報を随時更新している。

8.5.2 システム情報科学研究院研究活動交流会

本研究院の研究活動および研究内容の紹介を、一方的な講演だけではなく、学外の技術者などと双方向の交流をしながら行うために、毎年、年度末の時期に研究活動交流会を実施している。平成21～23年度の研究活動交流会の概要を下記に示す。ポスター展示については、各研究室の修士1年生が説明を担当しており、教育的効果も同時に狙っている。

○平成21年度 未来への架け橋システム情報科学

日時：平成22年3月4日（木）

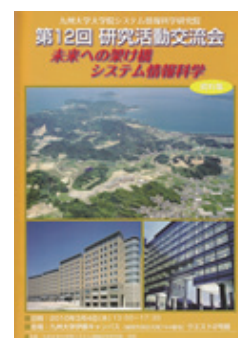
場所：システム情報科学府・研究院

■技術説明会 2件

■講演 4件

■ポスター展示

■懇親会



○平成 22 年度 システム情報科学の若い力

日時：平成 23 年 3 月 1 日（火）

場所：システム情報科学府・研究院

■講演 4 件

■パネルディスカッション

■ポスター展示



○平成 23 年度 九大から世界へ～女性研究者の活躍～

日時：平成 24 年 3 月 2 日（金）

場所：システム情報科学府・研究院

■講演 3 件

■特別講演 1 件

■ポスター展示



8. 5. 3 先端サマーセミナー

以前は大学院学生向けであったサマーセミナーを、学外一般も受講できる公開講座として、開設した先端サマーセミナーを実施している。ここでは本研究院の講師 4～5 名が最先端の研究紹介を行っている。

○平成 21 年度 「先端サマーセミナー 2009」

日時：平成 21 年 9 月 4 日（金）

場所：システム情報科学府・研究院

■講演 9 件（うち九大内他組織 1 件，学外 2 件）

○平成 22 年度 「システム情報の底力」

日時：平成 22 年 9 月 10 日（金）

場所：総合学習プラザ

■講演 6 件

○平成 23 年度 「九州大学百周年記念講演会」

日時：平成 23 年 9 月 22 日（木）

場所：工学部西講義棟

■講演 5 件（うち学外 1 件）

8. 5. 4 システム情報科学紀要

システム情報科学府・研究院における研究成果を、紀要委員会による査読を経て、論文として掲載している。以前は紙媒体でのみの発行であったが平成22年以降、投稿もオンライン化し、学府・研究院ホームページにおいて電子公開されている。

8. 6 学術情報と情報公開・広報活動に関する評価のまとめ

学術情報インフラストラクチャに関しては、最新の設備への積極的投資を行い、高度情報教育の推進と学術情報発信の基盤整備を行っている。これにより、学内外の組織との連携を支援するとともに、伊都地区と箱崎、筑紫地区を結ぶ遠隔講義をはじめ、キャンパス間にまたがる教育活動を実現している。部局独自のクラウドシステムの導入に加えて、全学の電子サービスの活用により、運用の省力化と高信頼化を進めている。設備導入に関しては、予算も含めた企画提案を行うための情報通信委員会を設置しているが、課題の1つは、こうした新たに導入した基盤設備の管理運営である。これに関しては、平成24年度に、新たに情報基盤室を設置し、検討後に解消の計画である。一部では、外部のソーシャル・ネットワーク・サービスを利用する情報発信も進んでいるが、パスワードをはじめ、セキュリティ管理が課題となっている。これには全学レベルでの情報セキュリティ委員会でガイドラインの検討がはじまっている。

情報公開・広報に関しては、紙媒体から電子メディアへ、また学内から一般へ、さらに一方向の説明会から双方向の交流会へ、と広報活動が改革されてきた点は、システム情報科学研究院中期計画中の「研究成果の社会への還元」の項目に掲げた、システム情報科学紀要の電子媒体化、研究活動説明会を産業界とより突っ込んだ交流が可能な形態に変更するという計画が実現できていることを意味しており、その効果とともに評価できる。しかし、現在のホームページでの公開情報は電子文書であるが、一部の機関ではYouTubeなどを利用し、積極的に録画講演なども公開している。今後はソーシャルネットワーキングなど、最新のメディア通信手段を有効に活用し、いかに広報活動に生かすかが検討課題である。この自己点検・評価報告書の公開も必須である。